



千地申14号

「電気部門の変革2022」を通じて

「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある電気職場を創る申し入れを提出！①

「電気部門の変革2022」については、本部・本社間での議論を経て、2019年1月30日、支社より提案を受けました。本施策は、銚子・館山メンテナンスセンターの統廃合をはじめとする「電気部門の在来線の効率的なメンテナンスの実施」、「スマートメンテナンスの導入等による業務のスリム化」、「技術センターにおける業務の簡素化」等を、2022年を見据えた長期スパンで行うという内容です。

生産年齢人口の減少や技術革新の進展など、環境の変化に柔軟に対応することは必要です。一方、施策を担う電気部門の仲間からは「設計部門を中心に超勤が多すぎる」「夜間作業時の心身の負担が大きい」などの声や、異動および出向に伴う生活設計への不安など様々な意見が寄せられており、施策を進めるにはそれらの課題の解決が必要です。

地本は、「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある電気職場を目指すことを通じて「変革2027」にある「社員・家族の幸福」を実現し、担って良かったと思える施策を創り出すために下記のとおり申し入れました。今後、団体交渉で協議します！

記



【共通】

1. 本施策の目的および目標を明らかにすること。
2. 電気部門における要員需給の見通し（JR本体およびパートナー会社）を明らかにするとともに、必要な要員を安定的に採用・確保するための具体策を明らかにすること。
3. 本施策によって超過勤務および夜間作業の削減を実現し、組合員・パートナー会社社員・家族の心豊かな生活を実現すること。なお、設計部門については超過勤務が過大であることから、要員を増配置するとともに、承認図面類の承認行為を電子決裁化するなど簡素化すること。
4. 夜間作業における安全性の更なるレベルアップを目指して、個室で質の良い睡眠を確保できる環境を各技術センター、メンテナンスセンター、デポ、パートナー会社のサービスセンター等に整備すること。
5. 異動および出向にあたっては、面談で本人希望、家庭の事情、通勤事情等を把握し最大限尊重すること。なお、組合員の出向期間は原則として3年以内とすること。また、異動および出向する場合の制服やロッカー等の準備には万全を期すこと。
6. 設備管理システムの諸元データおよび関係図面の整備を最重要課題として優先的に取り組むため、各技術センターに諸元管理・図面管理の専門科を設置し、データ整備担当者を増配置すること。もしくは、諸元管理はメンテナンスセンターにて行うこと。



【電気部門の在来線の効率的なメンテナンスの実施】

7. 銚子・館山メンテナンスセンターを統廃合箇所とした根拠を明らかにすること。
8. 保線部門等との調整等を効率的に行うため、信号・電力ともに、メンテナンスセンターの境界を勝浦ではなく安房鴨川に設定すること。なお、勝浦～安房鴨川間の管理メンテナンスセンターは茂原信号メンテナンスセンターおよび一ノ宮電力メンテナンスセンターとすること。
9. 管理メンテナンスセンターについては、統廃合されるメンテナンスセンターから工事監督業務等を引き継ぐことから、業務量増加に見合った要員を増配置するとともに、決裁件数の増加に対応できるように管理者の体制を整えること。なお、特に成田メンテナンスセンターは担当線区が多岐にわたることから、信号・電力ともに一般社員を2名増配置すること。

その②へ続く